校訓 明るく楽しくたくましく「あ・な・た」を大切にする心のふるさとパリ日 depuis1973

日仏文化学院 パリ日本人学校

令和７年度学校だより　第８号　令和７年１０月１０日発行　パリ日本人学校　堀内正樹

パリ日の伝統

１０月１日、今日はパリ日の創立記念日です。

長い歴史をもつ学校には伝統があると言われます。では、パリ日の伝統とは何でしょう

決められた時期に行事が行われることなのでしょうか。それも伝統というかもしれませんが、その行事そのものというより毎年大成功となるように先輩たちからバトンを受け取った人が一生懸命取り組むその人たちの姿勢や意気込みが伝統なのではないでしょうか。

ここにお面があります。このお面は和紙で作られています。和紙を小さく切って水で溶いた糊に浸し、一枚一枚貼り重ねてお面の形にしていくのです。学校に通う児童生徒をこの和紙に例えれば、一人の力は小さい（薄い）けれど、一つの活動の成功を目指して協力して取り組んでいき、見る人を感動させるような素晴らしいものを作り上げることができるのです。

また、薄い和紙を何枚も時間をかけて重ね合わせていくように、伝統というものはすぐに出来上がるものではありません。何年も時間をかけて醸成されていくものなのだと思います。

パリ日の伝統。先輩たちが、５３年間どんなことにも協力して一生懸命取り組むことで作り上げられてきたパリ日祭が君たちに引き継がれもうすぐ開催されようとしています。今年の伝統のバトンを受け取ったのは君たちです。パリ日祭の大成功を期待しています。

ヴェルサイユ庭園へ 秋の遠足

９月１日、今日は小学部の秋の遠足。雨が心配されましたが、日頃の行いの良さからか秋晴れとなりました。縦割りで作られたグループで午前中はウォークラリーをしました。班長がよくグループをまとめてくれていて、チェックポイントごとに出される先生からのクイズにも協力して答えていました。

お弁当のあとは同じく縦割りで自由遊び、だるまさんが転んだ、はないちもんめなどヴェルサイユガーデンに日本らしい遊びで楽しく過ごす子供の笑顔が広がりました。

学習と行事の両立！

～中学部　中間テスト～

パリ日祭の準備や練習で忙しい中ですが、中学部では９月２５・２６日に中間テストが行われました。それぞれの教科での学びの定着を自分で確かめる良い機会にしてほしいと思います。教室には緊張感が漂い解答用紙に向かう鉛筆の音だけが聞こえていました。

中学部 新カフェテリア!

昼食の時間に、中学部による「新中学部カフェテリア」が行われました。中学部を３つのグループに分けの会食です。話題がいくつか提供されました。パリ日に部活動があったら…パリ日に制服があったら…パリ日がパリにあったらなどなど。

会話は盛り上がりあっという間のお弁当タイムでした。生徒会のみなさん素敵な企画をありがとうございました。

青少年の主張大会行わる

中学部で青少年の主張大会が行われました。国語の授業で全員が取り組んだ作品の中から６名が小学部６年生と中学部全員の前で発表しました。

いずれの作品も素晴らしく甲乙付けがたいものでしたが最優秀賞は、３年生の吉宮君の主張に決まりました。

「言語から見る、グローバル化」

３年　Y.Y

今、世界では英語を学ぶことが当たり前になってきています。どの国の、どの学校でも英語を学んでいると思いますし、大人になってから学び始める人も大勢いると聞きます。この背景には、交通手段や通信技術が発達し様々な国の人が関わりあうようになった中で、皆の架け橋となるような言語が必要になったことが挙げられます。最近、僕は言語に興味を持ち、色々と調べていたのですが、地球上では英語教育が重要視される一方で、疎かにされ、消滅しつつある言語もたくさんあることを知りました。

世界には約 7000 もの言語が存在すると言われていますが、そのうちの約 40%は消滅の危機に瀕しているそうです。

例えば、北海道や沖縄で話されていたアイヌ語や与那国語は、明治時代、政府から同化政策を受けたことで、現在は国連のレッドリストに載っているほど消滅が目前まで迫ってきています。

そのほかにもこのような消滅の危機に瀕している言語はたくさんあり、中には事実上すでに消滅したものや、話者が 10 人に満たないものも多くあるのです。だから、グローバル化が進み、英語などの共通語での生活が加速され、このような少数言語が消えていくことに僕は違和感を感じました。

しかし、なぜそのようなことが起こるのでしょうか。調べていくうちに、経済力の集中や植民地支配、グローバル化などによる言語の弾圧などによって、人々が必然的に多数派の言語に適応しなければならなくなることが多くあるのだとわかってきました。例えば、今年僕たちが宿泊学習で行ったプロヴァンス地方では、元々プロヴァンス語が話されていましたが、フランスの経済力が高まったことで、今ではフランス語が話されています。つまり、大きな勢力によって土地や文化が均一化されていくことで、言語まで均一化されていくことがあるのです。

こうやって自然淘汰されていく世界を、グローバル化と呼ぶのなら、それは本当に推し進めて良いものなのでしょうか。言語はそれぞれの歴史の中で生まれたものであり、それぞれの民族の人間性や思考、文化の象徴だと考えます。実際、繊細な語彙が多くある日本語では、短歌や俳句など、短い言葉で多くの背景を想像させるような日本独自の文化があり、言葉がそれを物語っています。僕は世界をただ単に平らにするだけではなく、このような言語、あるいはそれと結びつく文化を守っていくべきなのではないかと思います。では、これらの言語を守るために、僕たちは何ができるのでしょうか。

まずは、世界の様々な言語や文化に興味を持ってみることが大切だと思います。例えば、僕は最近、「ドゥドゥク」という楽器に興味があるのですが、この楽器はアルメニアという国で生まれた民族楽器で、とても厳かで、柔らかい音色を持っています。実際、アルメニアで話されているアルメニア語は、発音などの影響から、柔らかく、リズムのある響きを持っていて、言語と文化が密接に結びついているといえます。言語について学んでみることで、普段学校で学んでいるような地理歴史はもちろん、美術や音楽などの背景にある、様々な国や民族の文化についても知ることができます。そこには、英語を学ぶだけでは知る

ことのできないような、新たな価値観が広がっているはずです。

　そして、何よりも大切なのは、母国語を大切にし、理解を深めていくということです。先ほどの短歌や俳句の例にあるように、僕たちの母語、日本語にはたくさんの美しい表現があります。日本の古典では、「をかし」「おもしろし」「あわれ」など、趣を表す、似たような語彙が多くありますが、そのどれもが少しずつ違った意味を持っていました。現代の日本語でも、このような語彙は「大和言葉」として受け継がれ、日本人の人間性や思考に大きな影響を与えています。自分たちの言葉にしかない表現を大切にすることで、アイデンティティが生まれ、それが自国の言葉を守ろうとする意識につながるのではないでしょうか。そして、そう考える人が増えれば、言語はこの先、失われずに長くにわたって受け継がれていくはずです。

　最後になりますが、僕はこの先も英語を勉強していきます。フランス語の勉強も続けていくつもりです。しかし、それだけではなく、旅行や、読書の中などで、様々な言語に興味を持ち、触れていこうとも思っています。グローバル化イコール世界の均一化ではなく、世界の凸凹も含めてグローバル化だととらえ、それを進めていくことができれば、世界の視野はもっと広がっていくのではないでしょうか。

10月11月　主な活動

月	日	主な活動
10	1	創立記念日
	11	パリ日祭
	5	英検一次
	13	振替休日
	17	生徒会立会演説会
	20	20～24日　保護者面談
	30	生徒総会
11	1	諸聖人の祝日
	5	全校朝会
	9	英検二次
	12	12～14日　期末テスト
	22	土曜参観日